

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 7
No.371

イナテックグループ創業者

稲垣邦松 会長 永眠

社葬告別式 喪主挨拶

(2024年7月9日(火)14時～15時30分)

皆様には、大変ご多忙中にも関わらず、会長(父)稲垣邦松の告別式にお暑い中ご参列を頂きまして誠にありがとうございます。

会長である父は、六月二十六日午後三時四十八分永眠いたしました。享年九十五歳でございます。

父 稲垣邦松は、旧松川鉄工様で修行させていただき、旧小田井鉄工様に育てていただきました。

昭和二十六年に切削加工を基本とした稲垣鉄工所を創業し、以来幾度の転換の後今日に至っております。

社業がこれまでに発展できましたのも、一重に皆様のご厚情のおかげと深く感謝しております。

父は九十五年の激動の生涯をたく逞しく、常にお客様、社員、家族の和を大事にし、チャレンジ精神豊かに人生を駆け抜けてくれました。

最後二ヶ月間ほどの入院生活を送りましたが、最後の最後までお見舞いに来てくださった皆様に「ありがとう、ありがとう」と言葉を発し、手を合わせて感謝の念を伝えておりました。私はその姿から「良次、すべての人に感謝の気持ち忘れな。謙虚に生きろ。」と、父から最後の教えを受けたと思っております。

今頃は、十四年前に他界した母と、好きだったお酒を飲みカラオケを歌い、私達を見守ってくれていることでしょう。

生前に賜りました皆様のご厚情に、父に成り代わりまして心からお礼申し上げます。

今後も我がイナテックは邦松会長の教えを受け継ぎ、チャレンジ精神をもって留まることなく邁進していく覚悟でございます。これまで同様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、お礼の言葉に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

二〇二四年七月九日 稲垣 良次

お力添えくださった皆様へ

深く感謝申し上げます

(告別式 会葬御礼より)

弊社取締役会長 稲垣邦松は、令和六年六月二十六日、満九十五歳にて生涯を過ごしました。

心に思い描いたことを実現し続けた夢多き人。天真爛漫で男気は溢れんばかり。振り回されることもありました。魅力ある人でした。

仕事に関しては、人一倍のアイデアマンであり技術者でした。普通はそのまま使う機械を自分好みで改造していく、鮮やかな手さばきが忘れられません。

私生活では、ゴルフが好きだからと練習場まで造り、家族の時間には輪の中心になって、自分自身と周囲を幸せにした人だったと思っております。

何より印象深いのは、周りのおかげで今がある、そのことを常に意識して、感謝の言葉を欠かさなかったことです。実り豊かだった生き方を手本にして、私達も悲しみに負けず歩いてまいります。

生前ひとかたならぬご厚情を賜りました皆様へ、深く感謝申し上げます。

喪主 株式会社イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

弔電を賜り

誠にありがとうございました

(告別式 弔電御礼より)

弊社取締役会長 稲垣邦松の葬儀に際しましてはご鄭重なる弔電を賜り誠にありがとうございました。ご弔意の言葉謹んでお受けいたし、霊前に供えさせていただきますました。

アイデアマンで夢を実現し続けた人生。公私共に実り豊かだったのはお力添えくださった皆様方のおかげに他なりません。生前賜りましたご厚情に、そして最後までお心を尽くしてくださったことに、深く感謝申し上げます。

時折故人の笑顔や共に過ごした時間を思い出していただけでしたら幸いです。早々に拝顔の上ご挨拶申し上げます。どこまでございますが、略儀ながら書中をもちまして御礼申し上げます。

喪主 株式会社イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

菜根譚後集

1101

文章做到極處、無有他奇、只是恰好。人品做到極處、無有他異、只是本然。

文章というものは、最高の域に達すると、特別に珍しい技法があるものではなく、ただびったり合った表現をするだけである。人格も、最高の域に達すると、特別に変わった点があるものではなく、ただ自然のままだけである。

社員の皆様、告別式後は会社でも会長 稲垣邦松に手を合わせていただき本当にありがとうございます。

会長に代わりイナテックグループをもっといい会社集団にしていきたいと思います。より一層頑張りますので今後とも宜しく願っています。

また、社葬(告別式)開催にあたり大勢の社員の皆様に協力していただき、大変ありがたく感謝しております。このような普段行うことのない式典を立派に執り行えたことは、素晴らしい会社で成長した証と思っております。ありがとうございます。

私もまだまだ頑張ります。宜しくお願いいたします。



株式会社イナテック取締役会長
稲垣 邦 松

略歴

| | |
|--------------|--------------------------|
| 昭和 17 年 3 月 | 尋常高等小学校 卒業 |
| 昭和 17 年 | 松川鉄工所 入社 |
| 昭和 26 年 6 月 | 稲垣鉄工所 創業 |
| 昭和 43 年 12 月 | 株式会社大東通商 設立 |
| 昭和 47 年 11 月 | 株式会社オアシスカントリー 設立 |
| 昭和 51 年 5 月 | 西尾機械工業会 理事 |
| 昭和 60 年 | アイシン高丘株式会社 高丘むつみ会 会長 |
| 昭和 61 年 5 月 | 株式会社広田大東(現 株式会社ツールワン) 設立 |
| 昭和 61 年 8 月 | 西尾商工会議所 機械金属工業部会 会長 |
| 昭和 62 年 6 月 | (社)発明協会愛知県支部 理事 |
| 昭和 62 年 | (公社)西尾法人会 理事 |
| 昭和 63 年 10 月 | イナテック技研株式会社 設立 |
| 平成 2 年 | 稲垣鉄工株式会社 取締役会長 |
| 平成 3 年 4 月 | 西機会 会長 |
| 平成 18 年 5 月 | 株式会社イナテック(社名変更) 取締役会長 |
| 平成 23 年 5 月 | 稲垣汽车配件(平湖)有限公司 設立 |
| 平成 27 年 8 月 | 株式会社イナテック鳥取 設立 |

受賞歴

| | |
|--------------|-------------------------|
| 平成 13 年 11 月 | (社)発明協会 中部地方発明表彰 奨励功労賞 |
| 平成 27 年 6 月 | (公社)発明協会 全国発明表彰 発明奨励功労賞 |
| 平成 28 年 1 月 | 日刊工業新聞社 優秀創業者賞 |

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024. 8
No.372

「イナテックお掃除」について

(イナテック企業理念の浸透)

去る7月30日の運営委員会にて人事総務部より「イナテックお掃除」について説明がありました。

これまでイナテックでは「お掃除」と「清掃」の違いについて議論もせず定義があいまいなまま「朝の20分間清掃」として20年くらい前から実施してまいりました。

時代と共に人が変わり、コロナ禍など幾多の事象が起こり、振り返ると「朝の20分間清掃」のやり方や考え方がバラバラになっていることに気づきました。

そこで今年から、2S・企業理念推進担当として山本社長付に「朝の20分間清掃」を「朝の20分間お掃除」として見直していた

だき、イナテック企業理念がより浸透するよう考えていただくことにしました。

そしてもう一度イナテックの企業理念について課長職以上のメンバーで考えようと、『企業理念を共に学ぶ会(理念共学会)』を立ち上げ、半年ほど議論を重ねてきました。

「お掃除」と「清掃」の定義

理念共学会の第一歩として「お掃除」と「清掃」の違いを議論し、定義化をしました。

・「お掃除」とは

心を磨く行為であり、朝の20分間の活用を中心に全社員で取り組む活動

・「清掃」とは

朝の20分間お掃除とは別の時間枠を使い品質向上や設備保全を目的とする活動

(※製造部は、毎週月曜 8:05～9:00を「清掃」の時間として品質向上や設備保全の目的で使う)

イナテック「お掃除」の目的

「朝の20分間お掃除」は綺麗にすることが目的ではありません。

・仲間への思いやり、仲間を想う心を養う
(利他の心)

・自分自身の心の雑草を取り除き、磨かれた心を醸成する(自利の心)

つまり社員の皆さんに、お掃除を通して「気づく人」になつてほしいということです。

利他の心

自分ひとりでは何もできない。これが人間の世界なのです。人様のお世話になっている、自然界のお世話になっている、だからこそ自分以外の人や自然界に感謝し、自分ができることをするのです。

自利の心

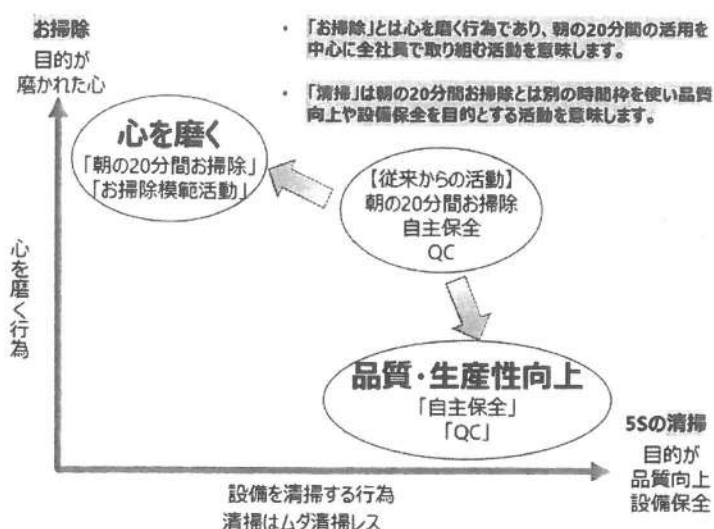
人間誰しも「やりたくない」「めんどうくない」「手を抜きたい」「暑い、やだな」「汚れる、やだな」「くさい、へどが出る」など

と思うことがあります。(このように思うことが「心の雑草」なのです。

それら「心の雑草」を抜く、つまり一つでもやってみる、一つでもやり抜いてみせる、それが自分の「心を磨く」ことなのです。いつでもすべて出来るわけがありません。まずは「心の雑草」に気づくことが大切なのです。

その数が多くなり、自然に出来るようになった状態が、企業理念でいう『磨かれた心』だと思っています。

だから「お掃除」をするのです。



掃除で社風が変わった

(鍵山秀三郎『掃除道』より)

お掃除をして環境をきれいにしますと、職場の雰囲気は穏やかになります。穏やかな環境は、心の荒みをなくし、怒りを抑える効果があります。

磨くことで「身につくもの」

(光明寺住職 松本紹圭氏)

床やものを磨くことは、そんなふうには、心の状態を世界に映して確認できるのと同時に、環境を磨き整えることで、しるべき本来のところへ心を納めるという作法も身に付きます。

磨き上げたと思った瞬間から汚れが積もり始めるのは、心も同じ。過去への執着や未来への不安を手放し、今というこの瞬間に集中する修行のような気持ちで掃除を行ないましょう。心を映す鏡を磨くような気持ちで、床磨きをされてみてはいかがでしょうか。

菜根譚後集 一〇三

以幻迹言、無論功名富貴、即肢體亦屬委形。以真境言、無論父母兄弟、即萬物皆吾一體。人能看得破、認得真、纔可任天下之負擔、亦可脫世間之羈鎖。

仮りまぼろしの世界によって言えば、功名や富貴はいうまでもなく、この吾が肉体でも仮りのものである。しかし、真実在の世界によって言えば、吾が肉親の父母や兄弟はいうまでもなく、この天地間の万物でも皆我と一体のものである。そこで、この世界が仮りのものであることを見破り、真実在の世界で万物は一体であることがわかった人であって、初めて天下の重任を負うことができる。また、世間一般の束縛から抜け出ることができる。

お掃除は「やらせていただく」が基本

この9月から実施する「朝の20分間お掃除」は、間接部署に所属する方々が製造現場をお手伝いすることがポイントのひとつです。その時の心の持ちようとして、「製造の生産現場のお掃除をさせていただく」と考える「自分磨き」に通じ、自分が成長する(自利の心)わけです。

その結果、製造現場がきれいになり、職場の雰囲気が穏やかになる(利他の心)。この循環が社員の皆さんの「徳性が磨き上げられ、人格を高めること」になります。イナテックをそんな集団にしたいというのが私の願いであり、皆さんの願いであってほしいと思います。もっと企業理念について議論をし、もっと分かりやすい言葉で表現し、皆さんと共に成長したいと思っております。もっといい会社にしよう！

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 9
No.373

意思

(稲盛和夫『考え方』より)

高い目標を達成したいならば、

「何としても、まっすぐに頂上を目指して、

登っていく」という強い意志を抱き、

垂直登攀の姿勢で挑まなければなりません。

世界一になろうと思うなら、それに合う

ような哲学、考え方がいるはずだと思います。

近所の小高い丘にハイキング気分に登

っていくのと、世界最高峰の、それも冬山

に登っていくのでは、装備も違うだろうし、トレーニングも違うはずですよ。

前文の稲盛さんの言葉を、私の経験に置き換えお話しします。

「沖繩―東海ヨットレース」で優勝することを目指し、数年かけて準備をし挑みました。結果として私の所属するヨットチームは、2年に1度開催されるレースで2回連続優勝を果たすことができたのです。

目標を決めてから、艀装の準備やクルーの手配をし、チームプリーの訓練を重ねるなど、チーム皆の努力は並々ならぬものでした。

三河湾のただけでクルージングをしていたならば、到底「沖繩―東海ヨットレース」には参加できなかったと思います。大きな目標を持つことで、日本で開催される最長距離の外洋レースに出場することができ、安全航海・役割分担・気象状況の読み・クルーの健康・セーリング技術など、様々な力が鍛えられたのです。

ほぼ5日間ヨットを止めることなく、風だけで沖繩から蒲郡まで3直体制でセーリングすることで、皆の力はさらに上達することが出来ました。それだけの力量を持つてすれば、素人には厳しい海況でも、三河湾内ではそれなりに安全な航海も可能だと考えております。(決して三河湾を軽く見ているわけではなく、海は怖いと思っています。)

会社経営においても、規模は小さくとも

考えただけは上場企業並みの大きな目標を掲げること、日々努力を積み重ねることによって次への道も見え、会社を永続できると考えております。

高い目標をあえて定め、

真正面から取り組む

(稲盛和夫『考え方』より)

世界一を目指すのであれば、それにふさわしい生真面目で高邁な哲学、考え方が求められるはずですよ。

今、イナテックでは『企業理念を共に学ぶ

会』を開催し、課長職以上の皆さんとイナテック企業理念を整理しています。やはりそこでも、前文でご紹介したような「真面目」

「哲学」「考え方」がぶれないよう議論を重ねております。そしてそれがイナテックフィロソフィーとして残ることを願っております。

勇氣

(稲盛和夫『考え方』より)

勇氣とは腕つぶしに自信があるとか、ケンカに強いといった蛮勇ばんゆうではない。

もともとはおとなしい性格で、

怖がりな慎重な人間が、

修羅場しゅらばを何回もくぐり、

場数を踏んで度胸をつけていくなかで

身につくのが真の勇氣です。

社員たちを絶対に路頭に迷わせてはならない、という強い思いが湧きあがりました。何としても、この会社を潰してはならない、何としてもこの事業を成功させなければならぬという一念で、私の頭はいっぱいでした。そうした「会社を守らなければならぬ」「従業員を守らなければならぬ」という義務感、責任感が私に勇氣を与えてくれました。

どのような困難に遭遇しようとも、勇氣を持って事に当たることが、たいへん大事だと私は思っています。

この勇氣を生み出す源泉が、相手への思いやりです。自分を捨て、自分はどうなってもいいと思い、相手のために尽くそうとすれば、真の勇氣というのは出るものです。

皆さん『ファーストペンギン』の話を知っていますか。前文でご紹介させていただいた『勇氣』から、南極に生息しているペンギンの行動

を思い起こしました。自然界でも人間の世界と同じことが起きているのです。

子ペンギンに餌を与えるために、親ペンギン達は集団で漁に行きます。冰山から何十メートルも高低差のある海へ飛び込むのですが、さすがどのペンギンも躊躇します。しかしその大群の中で、ある一匹のペンギンが最初に飛び込むのです。(それが毎回同じペンギンかは定かではありませんが…)すると次から次へとペンギン達が海に飛び込んでいきます。

この最初に飛び込むペンギンを「ファーストペンギン」と呼んでいます。

我々人間社会においても、会社においても、最初に行動する勇氣やリーダーシップが重要です。イナテックグループでも「ファーストペンギン」のような人財をたくさん育成し、勇氣を持って行動できる組織にしたいと思っております。

イナテックグループを「もつといい会社」「もつと楽しい会社」にして、次の発展に繋げていきます。

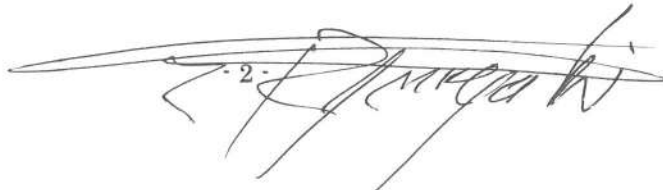
皆様の御理解と御協力をお願いします。

菜根譚後集

一〇四

爽口之味、皆爛腸腐骨之藥。五分便無殃。快心之事、悉敗身喪德之媒。五分便無悔。

人の口を喜ばせる美味は、(度を越しやすいので)、皆、胃腸をただらせ骨を腐らせる毒薬となる。ほどほどにして度を越さなければ、まあ害はない。また、人の心を喜ばせる楽しみごとは、(度を越しやすいので)、すべて身を誤り徳を失う原因となる。ほどほどにして度を越さなければ、まあ悔いはない。



社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024. 10
No.374

完璧

(稲盛和夫『考え方』より)

最後の1%の努力を怠ったがために、
すべてが無に帰してしまうことがあります。
自分自身の努力を
実りあるものとするためにも、
常にパーフェクトを
求めなければなりません。

イナテックの生産に置き換えてお話しします。
たとえば、あるラインの工程が10工程だとし
ましょう。そして最後の10工程目で不良が
出たとします。

するとその時点で1工程目から9工程
目まですべてがムダになってしまいます。そこ
にかかった労務費、材料費、電気代、刃具代、
油脂代などすべての費用がムダ(損失)になっ
てしまうのです。

だから稲盛さんの言われるように、最後の
最後まで手を抜かず集中すべきなのです。今
の技術では、それらをセンサーで管理するな
ど、機械化することが出来ます。そのような
ヒューマンエラーをなくすライン作りが必要で
す。

それによつて、品質保証度をBランクから
Aランクに上げることも可能なのです。

(注)品質保証度とは

Aランク…不良要因が発生すると設備が自
動で止まり、不良品が出来ない仕組み。

Bランク…不良品を人のチェック(検査)で止
めていて、人の良否判断が必要なライン。

Cランク…品質チェック基準もなく、不良品
が流出する恐れがあるライン。

パーフェクトを求める姿勢が

自信をつくる

(稲盛和夫『考え方』より)

「完全主義を貫く」ことをモットーにし
てきました。

そのときに最も大事なものは、自分自身
に対する自信です。人間として、また技術
的にも、自分自身に対して確信が持てる。
そういう確かなものを持っていなければ
なりません。自分自身にパーフェクトであ
るという自信のない人が、中途半端な心構
えで取り組み、その結果にも自信が持てな
い。それでは創造的なことは絶対にできま
せん。

「すべてのプロセスが完全に行われな
ければ、自分の理想とするセラミックスは
つくれない。完璧なものづくりをするため
には、どうすればいいのか」ということを
常に考えていました。

前述で稲盛さんは「完璧なものづくりをせよ」とか「すべてのプロセスが完全に行われなければならぬ」と言われていますが、現実的には難しいと私は思っています。とはいえ、最初から諦めるのではなく、「完璧なものづくりをするためにはどうすればいいのか」ということを常に考えることが非常に重要です。

失敗してもしようがないとか、品質保証度 B ランクでいいという考え方はなく、品質保証度 A ランクにするにはどうしたらいいのかという「探求心」や「深化」が必要で、それをイナテックグループの『文化』にしなくてはならないのです。

最近の品質に関する議論を通して、「お客様に『我々イナテックは常にパーフェクトを提供し続けます』というメッセージを発信できる会社でありたい」とより強く感じています。品質保証度 A ランクに出来れば、お客様からの信頼が得られるばかりか「ダブルチェック」や「トリプルチェック」「全数検査」などの工程を省くことができます。案にいい製品をつくることのできる環境にすることで、ストレスの少ない仕事になると思っています。

その結果、会社の利益が上昇し、皆さんの給与を地域 No. 1 にすることも夢ではないと考えております。

「完全主義を貫く」「パーフェクトを求める姿勢で挑む」を合言葉にしようではありませんか。

皆さん、よろしく願っています。

格言

「大法は心にあり小法は形にあり」

『月刊 三方よし経営'24年10月号』より

「小法」とは、マニュアルのような具体的な作業手順や文字などの「形」を指します。一方、「大法」とは、マニュアルにある作業手順の背景にある、より抽象的な考え方、つまり「本質」です。この格言はマニュアルなどの「形」に表されるものは、その「本質」の一部分に過ぎないので、「形」にとらわれては「本質」を見失ってしまう場合があることを示唆しています。

菜根譚後集 一〇五

不責人小過、不發人陰私、不念人舊惡。三者、可以養德、亦可以遠害。

人の小さな過失を責めたてることがせず、人のかくしておきたい私事をむりにあばきたてたりせず、人の過去の悪事をいつまでも覚えておくようなことをしない。この三つを実行すれば、自分の徳を養うことができるし、また、人の恨みを買って災害から遠ざかることができる。

イナテックには膨大なマニュアルや手順書、作業管理書、標準書があります。そこでこの「格言」についてよく考えてみて下さい。製造現場にも事務間接部門にも多くのマニュアルがありますが、その目的やねらいを伝えられていないのが現実です。実際にはマニュアルにない事態が発生したときに、目的やねらいが伝わっていないがために作業が停止したり、判断を間違えて取り返しのつかない事態に発展するケースがあります。

その時によく出てくる言葉は「ルールはあ

るのですか」「マニュアルはあるのですか」「そんな質問です。つまり「目的」や「ねらい」など、前述でいう「本質」が伝わっていない、形にとらわれて「本質」を見失っているという状態なのです。

皆さんには、常にその仕事の「本質」は何か

考え、「自分の言葉」で部下や後輩の方に伝えてほしいと願います。そして常に「本質」を議論する社風をつくっていきたいと思います。